

論文要旨

所属ゼミ	河野研究会	学籍番号	80530922	氏名	三上大岳
(論文題名)					
印刷会社のプリプレス部門のオペレーション改善 —「必要」な確認と「不要」な確認—					
(内容の要旨)					
本研究は、自身の実家が印刷会社であり、前の大学でも印刷について学び、前職も印刷会社で働いていた事による経験が、問題意識の出発点となっている。印刷会社のプリプレスと呼ばれる印刷前工程部門でオペレーターをやっていた折に、「事故」と呼ばれる「間違った印刷物」が刷られてしまう事象を何度も経験した。自分が勤務していた印刷会社では、「事故」を防ぐためには間違いを見つけるための「確認」をしなければならないという考え方で、「事故」が起きるたびに「確認」を増やしていった。そのため、顧客のイメージがPCデータ化された物を印刷用データに変換するという、オペレーター本来の付加価値のある作業が疎かになり、かえって「事故」が起きてしまっているように感じられた。このような確認作業の多さは、印刷業界だけに留まらず、直接部門や間接事務部門でも広く見られる現象である。 そこで本研究では、今回、本当に「確認」を増やすことが「事故」を無くす事に繋がるのか、今行われている「確認」自体が本当に沢山必要なのかを、実家であるA社の作業を事例として取り上げ検証することをねらいとしている。その際、「確認」のステップの発生理由や必要性を一般的に検討できるような手法を考察・提示し、それを経営に役立つツールとして開発することにより、A社の経営に対して有益な提言を行ない、同時に印刷業界に対しても意味ある提言をすることが本研究の最終的な目的である。 研究のアプローチ方法としては、まず印刷業界およびA社の特徴、「事故」と「確認」に関する調査を、過去のデータとインタビューにより行い、現状でA社がどのような印刷会社であるかを把握した。その上で、A社で行われているプリプレス部門を中心とした作業プロセスの調査を行い、確認のステップを中心として作業フローを分析した。さらに、その分析結果を基として、横方向に部門、縦方向に時間の経過をとった平面上に、確認に至る作業ステップとそこで用いられる情報を体系的に示す「部門間フロー図」と名づけるツールを考案し、各々の確認ステップとそれらの相互関係について、問題点や改善の着想を導くチェックリストを整理した。そして、実際にA社で行なわれている印刷作業を事例として、様々な問題点が体系的に導出されることを示し、提案したツールの有効性を検証した。 一般に印刷業界では、その専門性のために部門間で仕事に分断される傾向にあるが、本研究で提案するフロー図は、部門にまたがる問題発見や改善を可能にするという点で、経営に役立つツールとなっている。理論的には、そのようなツールを開発・提示したこと、実務的にはそれを用いてA社に具体的な提言を示していることが研究の主たる成果である。さらに、ここで示したフロー図は、確認を含む作業の分析に広く使える汎用性を有していると考えられる。					
以上					